

コンテンツ教育学会論文誌 投稿要領

■原稿

原稿は、日本語もしくは英語による完全版下（camera ready）原稿とする。製版後の校正は原則として不可能であるから、誤字や脱字がないよう、特に念を入れて仕上げる。万一、製版後に訂正の必要が生じた場合には、筆者が経費を負担する。

■原稿のページ数

「論文」「報告」「論説」は、題名、著者名、所属、趣旨、図、表、注などを含め、刷り上がりを原則偶数ページとする。

■原稿の冒頭

原稿の冒頭には、題名、著者名を入れる。ただし、題名は、論文等の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等は含めない。副題はない方が望ましい。

著者名には、*、*2のように「数字表記」を上付きで示し、それらに対応した所属を示す。

■著者の順と数

共著で論文を投稿する場合の著者順は、投稿される論文内容に最も貢献した者を筆頭著者とする。ただし、著者全員が論文の内容に関する責任を負う。また、著者の人数は、投稿論文の内容に貢献し責任を負う、適正な数とする。

■あらまし (Summary)

「論文」「ビジネス論文」「作品論文」「報告」の場合は、400字程度の和文あらましと和文あらましの英訳（英文サマリー）を付ける。

■キーワード

「論文」「ビジネス論文」「作品論文」「報告」の場合は、4～5語程度の和文および英文のキーワードを付ける。

■本文

次のように書くことが望ましい。

・はじめに／序論

研究の背景、関連する先行研究、研究を始めた動機、研究の目的を説明する。また、

論文等の要約と得られた成果を簡潔に説明する。投稿規定の投稿の条件（2）である関連既発表論文等があつて、その内容をもとに発展させた論文等を新規に投稿する場合は、もとの論文等を参考文献として明記し、文章中に関連を明記すること。（その発表内容の一部または全部（翻訳を含む）が投稿原稿となっている場合（投稿規定(2)③の条件にあたる場合）は、付記に記す形で差し支えない）。

- 本文内容

研究の方法（実験方法、分析方法等）、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明する。

- まとめ／結論

得られた結論や成果を簡潔に記す。できれば箇条書きとする。また、残された課題があれば簡単に書く。

- 付記

投稿規定の「投稿の条件」（3）の条件に関する投稿で、(a)から(f)で発表したものを翻訳・加筆して投稿する場合は、まとめ／結論の最後に、以下の例を参考にして付記し、その文献を参考文献リストに加える。

「本論文は、[1]で発表した研究を発展させて、その成果をまとめたものである。」

「本論文は、(2010 鈴木)の一部を翻訳し、再構成したものである。」

■見出し

見出しは以下のようにする。

- 1.
- 1.1.
- 1.1.1.
- (1)

■謝辞

謝辞に記す者は当該研究に対して助言や協力を受けた者を記す。

■外国語

固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。

■図、表、写真

図1、表1、写真1のように一連番号を付するとともに、必ず題名（キャプション）を付ける。ただし、不鮮明であったり、文字が小さい図表、写真が含まれたりする論文等は採録しない。表のフォントは明朝体とする。

■参考文献

参考文献は通し番号とし，本文中の当該事項または人名などの後に，[1]，[13]，[5-8]のように番号でもしくは（山田 2008）のように著者名と発行年で記す。文章の末尾に記す必要がある場合には，句読点の前に記す。

参考文献のリスト方法は、原則として次のように記す。

1. 番号で記す場合

雑誌の場合は，著者、表題，雑誌名，巻，号，頁，月年の順に記す。例えば，

[1] 日本太郎，コンテンツ教育の基礎，コンテンツ教育研究，vol.1, No.1, pp.20-27, Jan.2003.

著書の場合は，著者、書名，発行所，頁，発行年の順にする。例えば

[5] 山田太郎，田中花子，デザイン教育学入門，デザイン出版，1999.

URL (Uniform Resource Locator) アドレスを参照する場合の記述形式は，著者，表題，URL アドレス，参照日の順とする。URL はワープロソフトの機能により自動的にハイパーリンクが付されることがあるが，ハイパーリンクを削除するか，あるいはアンダーラインを表示させないようにする。例えば，

[10] コンテンツ教育学会，コンテンツ教育事例，<http://aaa.bbb.com/> (参照日 2016.03.20)
参考文献は，論文等の最後に番号順で一括する。尚，本文中で引用あるいは参照している文献のみを挙げること。

2. 著者名と発行年で記す場合

雑誌の場合は，著者，発表年，表題，雑誌名，巻，号，頁の順に記す。例えば，

・日本太郎 (2003) コンテンツ教育の基礎，コンテンツ教育研究，vol.1, No.1, pp.20-27

著書の場合は，著者，発行年，書名，発行所，頁の順にする。例えば

・山田太郎，田中花子 (1999) デザイン教育学入門，デザイン出版，1999.

URL (Uniform Resource Locator) アドレスを参照する場合の記述形式は，著者，発行年，表題，URL アドレス，参照日の順とする。URL はワープロソフトの機能により自動的にハイパーリンクが付されることがあるが，ハイパーリンクを削除するか，あるいはアンダーラインを表示させないようにする。例えば，

・コンテンツ教育学会 (2016) コンテンツ教育事例，<http://aaa.bbb.com/> (参照日 2016.03.20)

参考文献は，論文等の最後に著者苗字のアルファベット順で一括する。同一著者の著作物を複数扱う場合，発表年の昇順で列挙する。全く同一の著者が同一年に複数の文献を発表したものを参照する場合のみ，発表年の表記は 2010a, 2010b...とアルファベットを付す。尚，本文中で引用あるいは参照している文献のみを挙げること。

■引用

自分の主張を補強するために他人の文章を掲載して、それを解説することができる（著作権法第 32 条）が、他人の文章をそのまま引用した部分全体を「 」でくくり、必ず出典を記す。断片的な引用によって著作者の主張と異なると誤解されるような記述をすることは、著作者人格権の侵害とみなす行為（第 113 条第 5 項）となる恐れがあるので注意する。

■注

注はできるだけ少なくする。必要な場合、論文等の最後、参考文献の前に一括して入れ、本文中の該当箇所の右肩に 1), 2) のように示す。

■本執筆要領の発効

本執筆要領は、平成 28 年 11 月 1 日以降にうけつける研究論文から施行する。なお、本要領の改正は、理事会の議を経て、論文審査委員会が行う。

平成 28 年 11 月 1 日 制定

■問い合わせ先

論文審査委員会事務局 [平成 28 年度] 住所：

〒141-0031

東京都品川区西五反田 7-13-6 五反田山崎ビル 5 階

NPO 法人 NEWVERY 内 コンテンツ教育学会論文審査委員会事務局

TEL/FAX： 050-1071-8324

E-mail：